



千葉動力車

92冬季 取組 物

人権達成目標

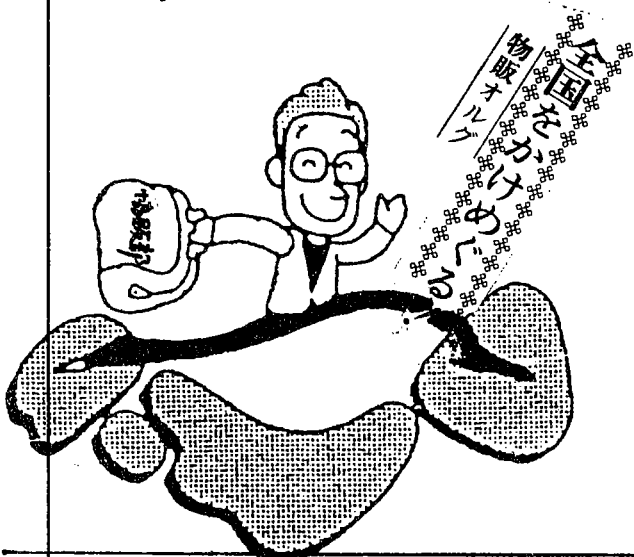
協販部から 訴えます。

協販部は、全組合員に物販闘争への総決起を訴えます。いよいよ冬期物販運動も佳境に入った。

各支部の役員・活動家、本部協販部を先頭に全国オルグが連日展開されている。

昨年の大会において、物販二倍化を掲げ、この一年間の奮闘によって今季全国オルグの日程はのべ二〇〇日を越え、二倍化方針の貫徹にむけて着実な前進をかちとっている。

物販闘争の前進のポイントとはにかく全国・県内の労働組合を訪問し、オルグすること。オルグの件数の拡大こそが、前進につながる核心なのである。



①全国オルグを一〇〇軒貫徹すること。

②全支部の総決起をもって県内オルグを従来の水準を越えるものとして貫徹すること。

③全組合員二万円の目標を貫徹すること。

である。

物販運動は、四三名の解雇者の原職奪還に向けた核心的たたかいである。全組合員の総決起で物販二倍化をかちとろう。

★部落解放

共闘会議結成される

「労働者よ階級たれ」われわれは、誇り高きプロレタリアートであり、人間的尊厳を持った唯一の階級の一員である。(略)われわれは、誇り高きプロレタリアートとして、全国連からの「階級的きようだい」の血の叫びに答えるのだ。

(大会宣言より)

十一・一部落解放東日本共闘会議結成大会は、五五〇名の仲間が、新水戸会館をうずめた。

黄色のゼッケンの全国連、赤いゼッケンの「交流センター」そして、住民運動等の仲間が心をひとつにして「共闘会議」の結成の重大な意義を熱い思いで確認した。

基調報告を、辻川動力水戸委員長が、全身にみなぎる決意をこめ提起、その中で四つの任務・方針を提起し万雷の拍手で決定された。

その第一は、階級のきようだいな全国連の存在と闘いに学ぼう。

第二は、狭山闘争勝利、石川氏奪還に労働者は責任をとろう

う。

第三は、茨城県連を防衛しよう。

第四に、全国連に呼応した全国労組交流センターの巨大な発展を勝ちとろう。
辻川氏は、最後に「やろうとおもえば必ずできる。労働者は

必ずわかります。この信念で闘おう」と訴えられ全員が決意を新たにしました。

動力千葉からは、各支部の代表が参加し、中野委員長が「交流センター」を代表し、主催者挨拶をおこない、力をこめて「激動の時代の到来は、新しい組織、新しい力、新しい運動を求めている。それに答えるのが「共闘会議」と鮮明にその意味を訴えられた。

われわれは、「共闘会議」結成の意義をしっかりと確認し、部落のみなさんの熱い思いに答えるため全力でたたかおう。

11月1日
部落解放
東日本共闘会議結成
堂々と大会をかちとった。

